

P T会議概要 (H23.10.28(金)午前 9:30 ~ 行政会議室)

外部アドバイザー：稲継教授（早稲田大学大学院公共経営研究科教授）

市出席者：西端市長、泉谷理事、鮎谷総務部長、P T 6 名、事務局（企画）

概 要

- ・ 守口市の中だけで、職員をどれだけ減らしたとか、歳出をどこまで減らしたとかいう議論をしていると、類似団体の取組みとの比較ができない。他団体と比べてまだまだ頑張らないといけない状況にあるということをまず認識してほしい。（市町村財政比較分析表の説明の中で）。
- ・ 10 年間の収支見通しは、市税収入の減少や扶助費の増加についての見込みが甘い。歳入は少なく見積もり、歳出は多めに見積もるのは鉄則。
- ・ 今後 10 年間でどれだけ収支が悪くなるか、市民等に危機的な財政状況を訴えないと改革は進まない。
- ・ 財政運営の方針については、この3つの柱、方向性で正しいと思う。進めてほしい。
- ・ 経常収支比率 95%の目標は最低ライン。
- ・ 事務事業の評価制度がないのは驚き。ぜひ実施してほしい。その際、事業や施設の必要性、有効性等についての説明責任を担当課に転嫁することが有効な手段。その説明ができなければ事業や施設を続ける必要はない。
- ・ 公民館に正職員が30人近くも張り付いている。NPOや地元任せるとか、先進市を例にいろんなやり方を検討すべき。
- ・ 職員全体で1000人の市で、保育士が200人(2割)もいる。どうなのか。待機児童がありながら、定員割れを起こしている。マネジメントとしては破たんしているのでは。保育所の方向づけには様々な抵抗があるだろうから、大がかりな検討会議でも立ち上げて見直していくべき。
- ・ 給食の調理員、校務員なども民間委託を進めるべき。
- ・ 高槻市などは臨時職員をたくさん配置している。正職員より能力が高くてやる気のある臨時職員はたくさんいる。50人程度なら少ない方。
- ・ 今後の累積赤字を回避するには、場合によっては新規採用を3年程度ストップするというのも一つの手段。吹田市は採用ストップを決めた。採用を止めても、後に社会人採用など年齢の高い職員を採用すれば、職員の年齢構成はいびつにならない。
- ・ 2級から3級にあがるのは、ギリギリ許されるかもしれないが（本来は研修の効果測定などすべき）、3級から4級に試験なしで上がる上席主査はいかがなものか。改めないと。4級職員540人のうち、426人が係長試験を受けずになれる上席主査で、114人だけが係長試験に合格した管理職である係長や主任というのはおかしい。管理職でない上席主査が管理職と同じ給料というのはおかしい。ぜひ改めるべきで、その際、現給保障をせず段階的に給料を下げていく方式をとるのかどうか。組合交渉は大変だが腹をくくれるかどうか。